

第45回日本・ASEAN経営者会議

デジタルとスタートアップに焦点をあて
日本とASEANの新たなパートナーシップの可能性を議論

経済同友会は、日本とASEANの経済関係の深化を目的に、1974年より毎年、日本・ASEAN経営者会議（ASEAN-Japan Business Meeting: AJBM）を開催している。今年は、「グローバルな変化に伴うASEANの新たな現実・新しい機会」というテーマの下、第45回AJBMを都内にて開催。日・ASEANのデジタル化への対応やスタートアップの役割について、日本とASEAN 8カ国の企業経営者、およそ180人が議論に加わった。日本からは、櫻田謙悟代表幹事、橋本圭一郎副代表幹事・専務理事、林信秀アジア委員会委員長をはじめ経済同友会会員など約80人が出席した。



全体概要

第45回AJBMは、デジタル化・スタートアップを切り口にプログラムを構成した。この背景には、デジタル化など、さまざまな変化によって、日本のASEANでの存在感が低下しているのではないかと、製造業バリューチェーンを基盤とする、日本とASEANの従来パートナーシップのその「先」を考える必要があるのではないかとという問題意識がある。

そのため、会議全体の基調を提示する「全体会議1」では、デジタル経済の牽引役としてアジアからも注目を集めるソフトバンク、日本とアジアのビジネスを市場の力でつなぐ役割を担う東京証券取引所から、講演者を招いた。

続く昼食懇談会では、日・ASEANのスタートアップなど7人によるパネル



林信秀委員長

ディスカッションを開催。アジアの社会課題解決に取り組むさまざまなビジネスモデルが紹介され、さらに、デジタル化によるさまざまなセク

ターへのインパクトを掘り下げるため、Eコマース、製造業、インフラ・社会課題解決の3点について分科会を設け、日・ASEANの双方の課題や相互連携の可能性について議論を行った。

一連のセッションを終え、議長を務めた林アジア委員会委員長は、「日本企業は、『モノ』の力をベースとしつつ、ASEANの社会により深く浸透することで、より一層顔の見えるパートナーとして、存在感を発揮していくことを期待する」と総括。橋本副代表幹事・専務理事は、「変化の中にあっても、ASEANと学び合い、共に持続的な成長を目指す日本の立場に揺るぎはない」と会議を締めくくった。



橋本圭一郎専務理事



櫻田謙悟代表幹事

セッション終了後の夕食懇談会では、櫻田代表幹事が主催者を代表して挨拶。「われわれは、不安定、不確実、複雑、曖昧なVUCAの時代にあり、その解決策は、一企業や一国で見つけられるものではない。そのため、先人が築き上げてきたAJBMを、われわれの叡智を集め、課題解決を図るためのエコシステムに変えていきたい」と提案した。

ハイライト1：デジタル化

「デジタル化」のフロントランナーであるソフトバンクの事業戦略について、今井康之副社長兼COO、野崎大地執行役員グローバル営業本部長から基調講演をいただいた。

その事業戦略の基本は、テクノロジーを社会貢献に応用すること。超高齢化という日本の課題に向き合い、高齢者の移動の問題を解消する移動診療車など、MaaSに関する事業を本格的に始動。また、労働力不足に伴う海外人材の活用を視野に、外国人向けサービスのワンストップ化にも挑戦している。

その他、アジアのスタートアップがスケールアップするための支援、データ活用など、アジアのデジタル・トランスフォーメーションへの貢献を、新



各分科会報告と総括を行った全体会議 2

たな機会として見いだしている。

ハイライト2：スタートアップ

会議の新機軸として、昼食懇談会に際し、日・ASEANスタートアップパネルを開催し、間下直見アジア委員会副委員長がモデレーターを務めた。

登壇者の事業領域は多岐にわたり、日本からは、世界で初めてミドリムシの商業生産(培養)に成功した「ユグレナ」、超小型衛星による宇宙ビジネスベンチャーの「アクセルスペース」、医療用VRコンテンツ開発の「ホロアイズ」、ASEANからは、アプリを介して人々の運動習慣を促進するサービスを提供する「LIV3LY」(シンガポール)、中小企業のデジタル化対応に向け、マーケティングやEコマース用のアプリを開発する「Compro Kotak Inovasi」(インドネシア)などが登壇した。

パネルでは、各社事業紹介の他、国境を超えた事業展開への抱負や起業家として生きることの意味などを巡り、意見が交わされた。

ハイライト3：分科会



昼食懇談会

分科会1では、渡部一文アジア委員会副委員長の進行の下、越境Eコマースの拡大に伴い、地方・中小企業がグローバル市場へのアクセスを得られる

こと、Eコマース円滑化に向けた政策やロジスティクスの進化の必要性などについて、意見交換が行われた。

分科会2では、八馬史尚同副委員長が司会を務め、アジアにおける製造業バリューチェーンへのデジタル化のインパクトを探った。技術革新に伴う課題として、「人材」の問題に焦点があたり、人材の流動化、教育・訓練の問題についても話し合われた。

分科会3では、浅野敏雄同副委員長の司会の下、街づくり・産業基盤としてのインフラの重要性、貧困・環境・安全などの課題解決に挑むスタートアップの役割など、さまざまな事例が紹介された。

全体を通じて浮き彫りになったのは、テクノロジーの恩恵を地域に広げていくための課題、特に、国境を超えるビ



分科会 1



分科会 2



分科会 3

ジネスを円滑化するための標準化、雇用や仕事の変化に対する人材面での対応である。これら課題については、次回以降の会議でも継続的に掘り下げていく方針である。

第45回日本・ASEAN経営者会議プログラム概要 2019年12月12日~14日(役職は開催当時)

1日目●AJBM推進委員会会議(各国代表者会議)

2日目●開会式

主催挨拶：橋本 圭一郎 経済同友会 副代表幹事・専務理事
祝 辞：中山 展宏 外務大臣政務官(安倍総理大臣メッセージ代読)
祝 辞：シントン・ラーピセートパン 駐日タイ大使
導 入：林 信秀 第45回AJBM議長

●全体会議 1

導 入：林 信秀 第45回AJBM議長
基調講演：今井 康之 ソフトバンク 代表取締役副社長兼COO
野崎 大地 ソフトバンク 執行役員グローバル営業本部長
小沼 泰之 東京証券取引所 常務執行役員

●昼食懇談会/日・ASEANスタートアップパネル スタートアップ企業のグローバル展開戦略

※日本企業・団体のみ掲載。以下同
モデレーター：間下 直見 アジア委員会 副委員長
登壇企業：ユグレナ、アクセルスペース、ホロアイズ、インキュベイトファンド

●分科会 1 市場をつなぐ・広げる～デジタルが変える消費市場

モデレーター：渡部 一文 アジア委員会 副委員長
登壇企業・団体：経済産業省、JETRO、ヤマトホールディングス

●分科会 2 産業をアップデートする～デジタルが変える製造バリューチェーン

モデレーター：八馬 史尚 アジア委員会 副委員長
登壇企業：AGC、テラモーターズ、シナモン

●分科会 3 豊かな生活を広げる～デジタルが開く持続可能な社会

モデレーター：浅野 敏雄 アジア委員会 副委員長
登壇企業・団体：海外交通・都市開発事業支援機構、Global Mobility Service、センシンロボティクス

●全体会議 2 分科会報告・総括

総 括：林 信秀 第45回AJBM議長
閉会挨拶：橋本 圭一郎 経済同友会 副代表幹事・専務理事

3日目●AJBM推進委員会会議(各国代表者会議)

●視察：アマゾンジャパン 川崎フルフィルメントセンター
ヤマトホールディングス 羽田クロノゲート